

心に寄り添って 片づけのお手伝い

コープくらしのたすけあいの会
【生活協同組合共立社・医療生協やまがた】

お部屋の様子を拝見



ご両親の荷物などが置かれた部屋

これどうしましょう?



そば打ちに書道。深瀬さん、多趣味ですね



どんな風に片づけるか相談

除草・剪定された深瀬さん宅の庭



くらしの困りごとをキャッチ

「コープくらしのたすけあいの会」は、安心してくらしを地域づくりをめざして「必要ときに組合員どうしで助け合いができるといいね」という思いでつくられました。山形県では、地域性を尊重しながら、食と医療・介護を担うふたつの生活協同組合の組合員が、一緒に活動しています。そんな活動の現場にお邪魔してきました。

利用会員の深瀬嘉準さんは、デイサービスや訪問介護を利用しながら、「身の回りのできることは自分で」と生活しています。糖尿病があるので、特に食を大切に、生活協同組合共立社（以下共立社）から毎週届く食材をうまく使って、野菜たっぷりの食事に努めています。居間にはお料理の本がずらりと並んで、冷蔵庫にはいつもつくり置きのおかずをスツクしています。「食という字は、「人」に「良」と書くでしょ」と笑う深瀬さん。

利用者の声を受け止めて

今回の依頼は、「両親の部屋などに残っている物を片づけてほしい」という内容。「ヘルパーさんにお願ひできるのは、身の回りの掃除がメインだからね。丁寧にやってくれる、たすけあいの会に頼もうと思ったよ」と深瀬さん。

その一方、膝を痛めてしまい、片づけや庭掃除などには思うようにいかず困っていました。そんなとき、共立社のチラシから「コープくらしのたすけあいの会（以下たすけあいの会）」を知り、利用会員になりました。夏と秋口に2回、庭の草取りを頼んだとい

たすけあいの会事務局の木村久美子さんは、「深瀬さんのような、家事や庭の片づけ、病院への送迎といった依頼は増えていきます」といいます。「活動会員は自分の家事経験などを生かした援助をします。プロのようにできませんよとお話していますが、素人だから頼みやすい面もあるようです。実際お話し



写真左から事務局の木村久美子さん、利用会員の深瀬嘉準さん、活動会員の伊藤則子さん

スッキリしました



よく使う本だけ残して空いた棚

片づけ



相談しながら片づけます

※評議員：医療生協やまがた村山地域の組合員
活動の中心になるメンバー

事務局として、活動会員の研修や交流を大切にしています。活動しているみなさんは、利用者さんの思いを受け止めたいとがんばってくれていますが、踏み込んではいけな部分や、マナーは大切です。その上で、利用者さんとの信頼関係をつくっていかなくてはなりません。

交流会では、地域の名跡でお茶会をしたり、講師を呼んで学習会をしたり…。活動会員どうしで、援助の仕方、悩みを出し合う場にもなっています。



コープくらしの
たすけあいの会
事務局
木村久美子さん

「コープくらしのたすけあいの会」
活動のしくみ

生活協同組合共立社・医療生協やまがたの
組合員の登録制による有償ボランティア



一緒に片づけるとはかどるね

この日、深瀬さんのお宅を訪ねた活動会員の伊藤則子さんは、医療生協やまがた村山地域の評議員でたすけあいの会の運営委員も務めます。「活動会員になって10年、家事援助で月6、7回の活動をしています。私が高齢になつたとき、こんな風に助けてもらえたらいいなあと思って始めました」と伊藤さん。書を片づけたという、深瀬さんの意向を聞

しながら、援助してもらえるのがいいという方もいらつしゃいますね。利用会員からの依頼があると、コーディネーターが要望を聞き、活動会員とつなぎます。要望を丁寧を受け止めるところから、援助は始まっています。

き、一緒に片づけていきます。もちろん、廃棄する物の処分についてもあれこれアドバイス。「これは、古本屋に持っていくといいかも」「行政のゴミの日には、一度に出せないから、しばらくとっておきましょう」。そんな風に会話しながら、片づけがすすんでいきます。

ご両親の部屋や、趣味の道具が置いてあるスペースは、また後日片づけてみましょうと、この日の援助は終わりました。「いろいろな物を減らしてすっきりしたい。でも、できればちゃんとりサイクルしたいね」と深瀬さん。

次の片づけに向けて期待が膨らんでいました。

男物の衣類が
もっとあると
いいなあ



共立社であれこれ注文するお
買ひ物が、深瀬さんの楽しみ。

共立社 月間 MEP 表彰

新MEP基準

組合員の満足を増やす…組合員に喜ばれた実践や事例対象

成果は「利用してもらって終わり」や「加入してもらって終わり」ですが、喜ばれるのはその後に組合員が感じることです。商品は食べたり使ってみて初めて良さを実感できます。その時に買って良かった、すすめてくれて良かったとなります。成果の後行程に関心を持つことから始まります。組合員がどう感じたのかを追及する取り組みです。

組合員がどう感じたのか、喜ばれたのかを問い、良い実践事例を集め、広めることを仕事にしていく職場風土にしていきます。

「MEP理事長賞」は、表彰状と金一封(商品券3000円)を理事長又は専務理事が直接現場に行きお渡しをします。

5 月度 《MEP理事長賞》

酒田こぴあ センター 岡部 正明さんの事例!

推薦者 佐々木 鋼 センター長

移動販売車をいつもご利用頂いている後藤さん(一人暮らし年配者)は、足が不自由な為、毎週家に出向き声をかけて利用して頂いていました。前週にも出向き声をおかけしましたが、寝ていた様子だったので、体調が悪いですか?と聞いたら…大丈夫との返答でした。

5月5日(金)午後にいつもの停留所に到着し、家に出向き声をかけたところ、返答がなく変だと思い、担当の民生委員の阿部さんに連絡をして来て頂き、確認をして頂いたところ、すでに亡くなっていってしまったことがわかりました。

後日、岡部さん宛に、平田支援センターの今井さんより連絡が入り、「声をかけても返答が無いと連絡を頂いて、ありがとうございました。」とお礼の言葉を頂きました。

毎回、足の不自由な年配の方の家に行き、欲しいものはないか声をかけ、それと同時に体調のことも気にかけていた事が素晴らしいと思いました。また、異変に気づき地域の民生委員に連絡を取り、来ていただいて安否確認をとった行動が素晴らしいと思いました。